

指標の意義

センチネルリンパ節生検により転移のある腋窩リンパ節廓清を確実にを行い、不必要な腋窩リンパ節廓清および、これに伴うリンパ浮腫発生を減らす。

指標の計算式、分母・分子の解釈

- ・ 必要データセット：DPC様式1、E/Fファイル
- ・ 分子：分母のうち、センチネルリンパ節生検が実施された症例数
- ・ 分母：T1-2, NOM0の乳がん(初発)で入院して手術を施行した症例数
- ・ 分子÷分母(単位：パーセント)

分母の定義

- 解析期間に退院した症例を対象とする
 - このうち、様式1の生年月日、入院日より入院時年齢を求めた18歳以上の症例。
 - このうち、乳房の悪性新生物(乳がん)の診断を受けた症例。
- いずれかの病名のICD-10コードとして以下のいずれかが含まれる症例

ICD-10 コード	病名
C50\$	乳房の悪性新生物

かつ、以下の2条件を満たす症例。

- ①様式1「がんの初発、再発」が「初発」 かつ
 - ②「UICC病期分類(T), (N), (M)」がT1\$ (3桁以降はワイルドカード、T1a等を含む) またはT2、かつN0、かつM0
- IV. このうち、下記手術を受けた症例。

以下の手技のいずれかが算定されている症例(レセ電コードで抽出)

レセ電コード (診療行為コード)	手術点数コード	手術名
150121610	K4761	乳腺悪性腫瘍手術(単純乳房切除術)(乳腺全摘術)
150303110	K4762	乳腺悪性腫瘍手術(乳房部分切除術)(腋窩部郭清を伴わない)
150316510	K4763	乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術)(腋窩部郭清を伴わない)
150262710	K4764	乳腺悪性腫瘍手術(乳房部分切除術)(腋窩部郭清を伴う)
150121710	K4765	乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術)(腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの)(胸筋切除を併施しないもの)
150121810	K4766	乳腺悪性腫瘍手術(乳房切除術)(腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの)(胸筋切除を併施するもの)
150121910	K4767	乳腺悪性腫瘍手術(拡大乳房切除術)
150386410	K4768	乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わない))
150386510	K4769	乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴う))

分子の定義

- センチネルリンパ節生検を受けた症例

以下の手技のいずれかが算定されている症例(レセ電コードで抽出)

レセ電コード (診療行為コード)	手術点数コード	手術名
150345870	K4768	乳がんセンチネルリンパ節加算1
150345970	K4769	乳がんセンチネルリンパ節加算2
160188010	D409-21	センチネルリンパ節生検(併用法)
160188110	D409-22	センチネルリンパ節生検(単独法)

Stage I II (cN0) 乳がん手術患者に対する センチネルリンパ節生検実施率

測定上の限界・解釈上の注意

<実施している施設が少ないため2022年で測定終了>

- ・他の施設と指標値が大きく異なる場合は、診療行為の見直しのきっかけとなる。
- ・「UICC病期分類」は治療前に得られた臨床情報も含む情報に基づく分類(cTNM)であり、pTNM(術後病理所見による)、sTNM(手術所見による)と異なる場合があり、本来ならセンチネルリンパ節生検の適応にならない症例も含まれる可能性がある。
- ・センチネルリンパ節生検は外来日帰りでも行えるため、手術前に外来で施行されている場合や他院で施行され、紹介入院となっている場合もある。結果が低値だったとしても解釈に注意が必要である。

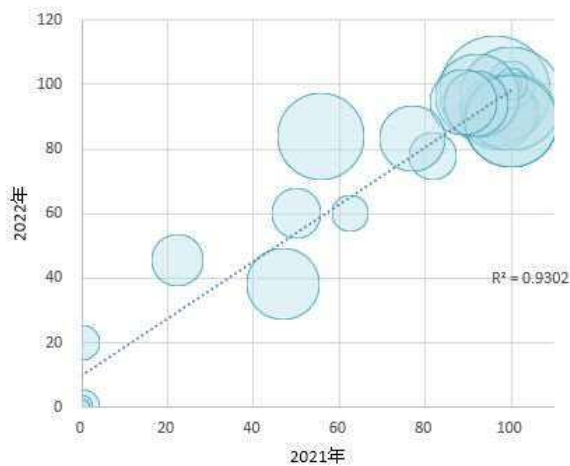
考察

最小値 0.00 中央値 86.2 最大値 100.00 (%) 該当手術を実施している23病院を対象
(2021年; 最小値 0.00 中央値79.4 最大値 100.00 %)

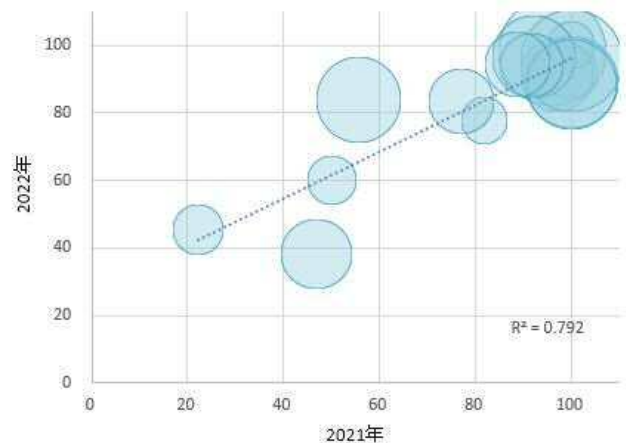
2022年と2021年の値を23病院で比較すると、前年とほぼ同様の傾向を認め、実施している施設が多いが、ほとんど実施しない施設と両極端の傾向を認めました(左図)。9例以上実施している16病院に注目すると、前年と同様が増えた施設を多く認めました(右図)。

この指標は、センチネルリンパ節生検が「加算」対象手技のため「届出」が必要であり、実際の手術で同様の手技を行って腋窩リンパ節廓清の適応を判断していても計上していない可能性があります。

Stage I II (cN0) 乳がん手術患者に対する
センチネルリンパ節生検実施率



Stage I II (cN0) 乳がん手術患者に対する
センチネルリンパ節生検実施率



改善・運用事例など

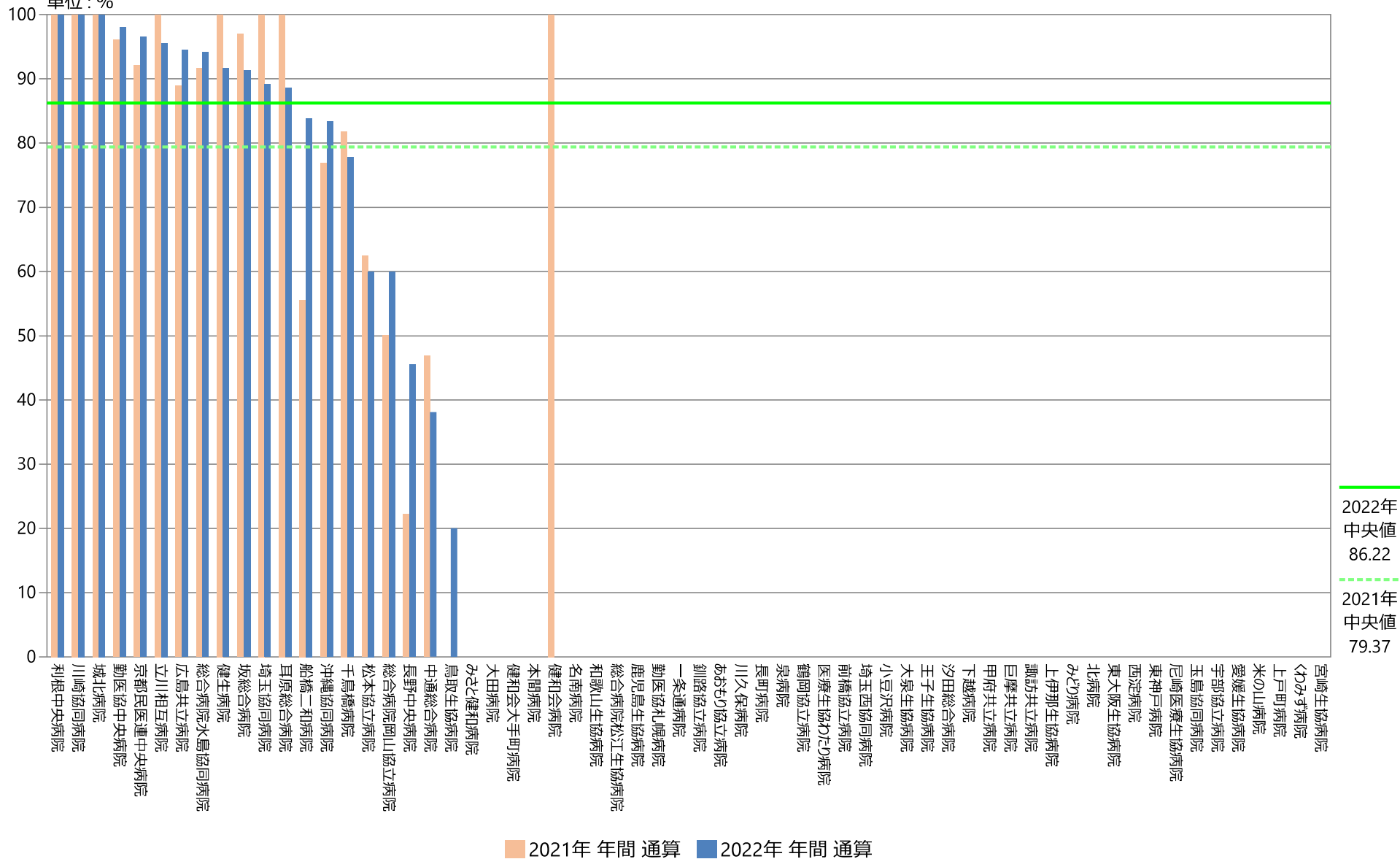
参考資料

- ・センチネルリンパ節生検の経験が豊富な外科チームがいて、患者がセンチネルリンパ節生検の候補として適切と思われる場合は、腋窩リンパ節病期診断よりもセンチネルリンパ節生検の方が望ましい方法となる。(NCCNガイドライン2012)
- ・浸潤性乳がんにおいて、腋窩リンパ節廓清を実施した方が生存率が高まることを実証した確定的データは存在しないため、特に予後良好と思われる腫瘍の患者つまり、術後全身療法を選択しても影響されないと思われる患者、高齢者、あるいは深刻な併存疾患がある患者では、腋窩リンパ節廓清の実施は必ずしも必要ではない。(National Comprehensive Cancer Network: NCCNガイドライン2012)
- ・臨床的腋窩リンパ節転移陰性乳癌において、センチネルリンパ節生検で転移陰性と診断された場合には、腋窩リンパ節廓清を省略することが標準治療である。(乳癌診療ガイドライン2018、BQ5のステートメント)

指標39 : Stage I II (cN0) 乳がん手術患者に対するセンチネルリンパ節生検実施率

指標39分母：退院患者中Stage I II (T1-2,N0M0) 乳がん（初発）で手術を受けた患者数
 指標39分子：センチネルリンパ節生検が実施された患者数

単位：%



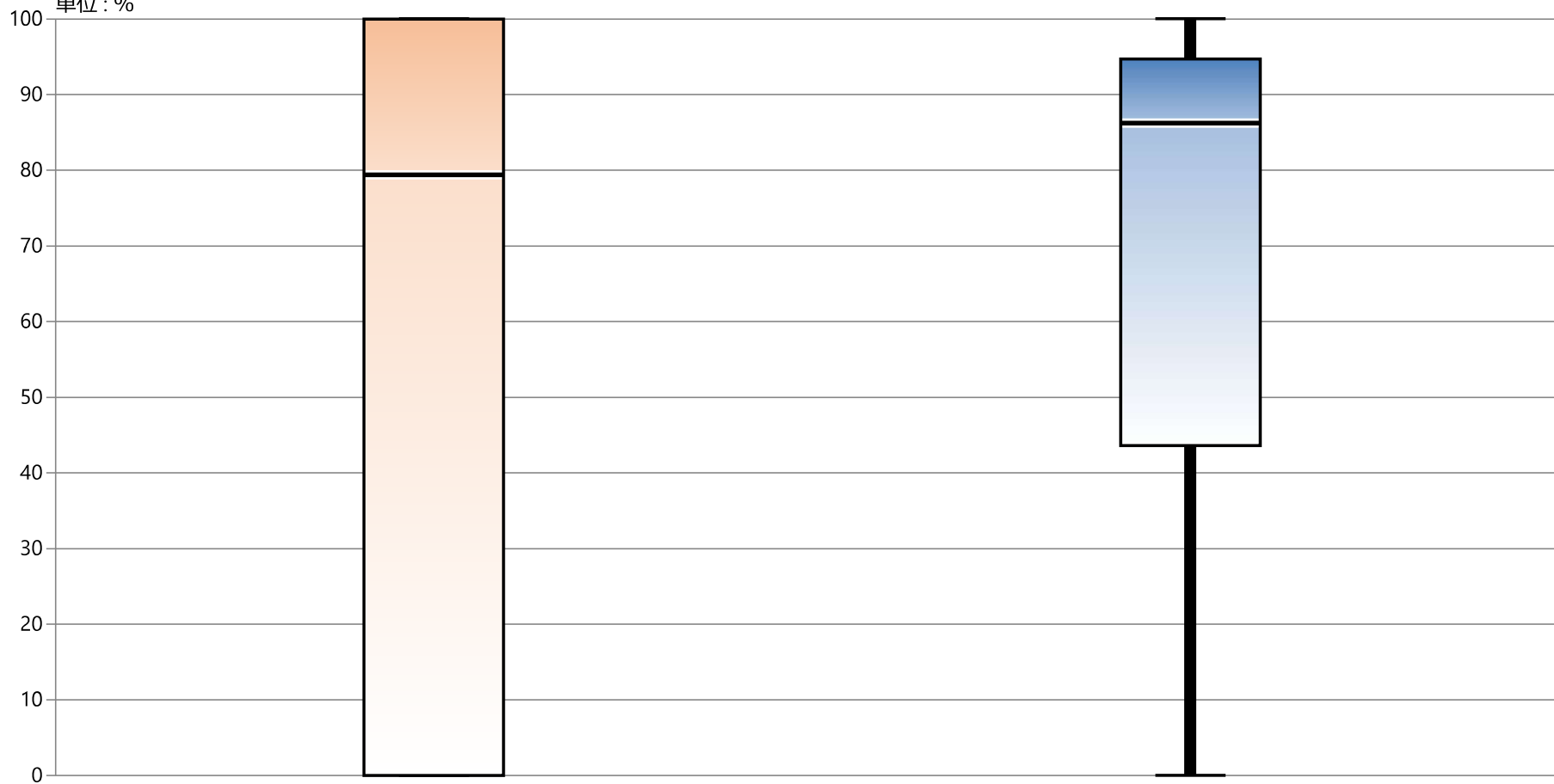
2022年
中央値
86.22

2021年
中央値
79.37

指標39 : Stage I II (cN0) 乳がん手術患者に対するセンチネルリンパ節生検実施率

指標39分母 : 退院患者中Stage I II (T1-2,N0M0) 乳がん (初発) で手術を受けた患者数
 指標39分子 : センチネルリンパ節生検が実施された患者数

単位 : %



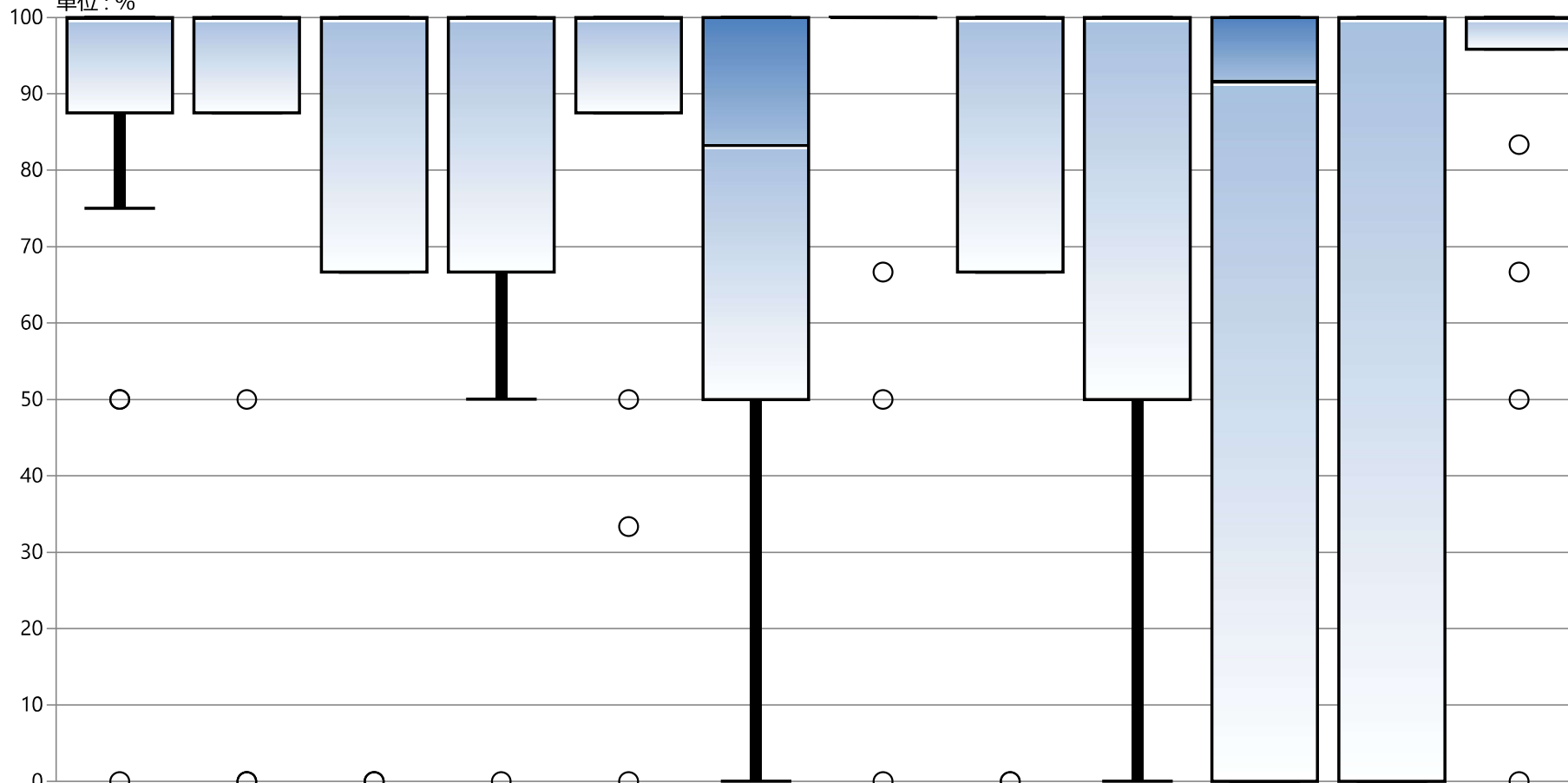
* 外れ値を除く

	2021年 年間 通算	2022年 年間 通算
最大値*	100.00	100.00
75%値	100.00	94.72
中央値	79.37	86.22
25%値	0.00	43.61
最小値*	0.00	0.00

指標39 : Stage I II (cN0) 乳がん手術患者に対するセンチネルリンパ節生検実施率

指標39分母：退院患者中Stage I II (T1-2,N0M0) 乳がん（初発）で手術を受けた患者数
 指標39分子：センチネルリンパ節生検が実施された患者数

単位：%



* 外れ値を除く	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最大値*	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
75%値	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
中央値	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	83.33	100.00	100.00	100.00	91.67	100.00	100.00
25%値	87.50	87.50	66.67	66.67	87.50	50.00	100.00	66.67	50.00	0.00	0.00	95.83
最小値*	75.00	87.50	66.67	50.00	87.50	0.00	100.00	66.67	0.00	0.00	0.00	95.83